

建設現場におけるウレタンフォーム等発泡プラスチック系断熱材の火災による災害発生状況（死亡災害）

発生年	月 日	発生地	死亡者数(人)	概 要
平成6年	11月12日	福岡	1	RC3階建倉庫解体作業において、1階倉庫内の鋼製棚をアセチレンガスで溶断中、火粉がコンクリート壁に吹き付けられた断熱材（ウレタンフォーム）に引火し、逃げ遅れた。
平成6年	4月26日	京都	2	競馬場の内装改修工事において、天井ダクトの配管作業中、吹き付けてあった保温材（ウレタン）から出火し付近が炎上した。このため作業員1名がCO中毒で、1名が熱傷でそれぞれ死亡した。
平成6年	4月 2日	秋田	2	地下ピット内において床のはつり作業及び清掃作業中、ピットの天井断熱材が燃えだし、CO中毒で死亡した。
平成6年	3月31日	北海道	2	増築部分の9階床下ピット内の結露防止のためウレタンフォームの吹き付け作業を行い、昼食のためピットから出ようとしたところ、爆発が起こった。
平成2年	6月23日	北海道	1	工事現場の覆工型枠内側の鉄筋に木枠の変形防止のため使用するセパレーター（ボルト）をアーク溶接により取付中、断熱材（硬質ウレタンフォーム）に引火し火災となり、発生したガスにより被災した。
平成2年	6月18日	北海道	1	被災者は温泉新築工事現場において、給湯に係る工事中、同地下1階において滞留していたと思われる可燃性ガス（メタン）に何らかの火源により着火し、同時に天井に貼っていたウレタンフォームにも燃焼し被災したもの。
昭和63年	5月25日	北海道	1	水産加工場増築現場の2階でエレベータ設置のためアーク溶接をしていたところ、同じ2階フロアで床面の防水工事に使用していた一液型ウレタン系プライマーに火花が引火し、火災となり逃げ遅れ焼死した。
昭和61年	11月18日	北海道	2	骨造2階建の建築工事現場において、溶接の火花がポリウレタンフォーム（断熱材）に引火し火災が発生し2階フロアで作業中の被災は逃げ遅れてCO中毒により死亡した。
昭和60年	8月10日	北海道	1	鉄筋のガス溶断中、飛散した火花が断熱材（硬質ウレタンフォーム）に引火して火災が発生し、CO中毒になった。
昭和60年	6月26日	東京	2	マンション新築工事において、被災者2人で1階床下に入ってポリウレタン樹脂吹付けによる断熱工事中、酸欠と発火燃焼ガスにより中毒及び全身熱傷になった。

死亡者合計15人